



寺嫁まめこの ひとこと通信

お寺のことや仏教のことをもっと身近に！そんなことをまずは自分で感じてみよう～、と思いながら書いている寺嫁のつぶやき。毎月ほぼ8日に発行

VOL.10 (令和元年9月発行)

こんにちは！少し過ごしやすくなったなあとお断っていたら、また暑さがふり返ってきたような…こうして徐々にうつり変わっていく季節を感じています。ちなみにワタクシゴトですが、秋が一番好きです！さて、秋には秋分の日、というものがあります。昼と夜の長さが同じ、という。今号は秋分の日とお彼岸のことを書いてみようと思います。どうぞおつきあいくださいませ^_^

秋分の日なぜ祝日なの？

～迷い多きこの世界から、迷いのない極楽浄土へ～

学生のころ、私の中で秋分の日はその祝日でした。学校休みでラッキー♪くらいな。でも、よくよく考えてみたら、昼と夜の時間が同じ、ってだけで祝日にするなんて、ずいぶんお気楽な感じがしませんか？もちろんこれが理由ではありません！広辞苑によると、【祖先をうやまい、亡くなった人をしのぶ日】とされています。お参りするための祝日ってすごくないですか？



春分、秋分の日。それは真東から太陽が昇り、真西に太陽が沈む日。昔の人は真西に沈んでいく太陽をみて、まさにそこに極楽浄土を感じたようです。ご先祖様への想いをはせることもあったかもしれませんね。

普段自分たちが過ごす、迷い多きこちらの世界から、迷いのない、落ち着いた心で過ごせる極楽浄土へ行きたいという願いも。迷いのない世界、それが彼岸（ひがん）です。

普段の世界である此岸（しがん）から彼岸へ！

そういう願いが、春分、秋分の日にお参りをする、いつも以上にがんばって修行をする、ということにつながっていくのは自然な流れなのかもしれません。

794(なくよ)うぐいす平安京～

実際、お彼岸の法要を初めて行ったのは桓武天皇（平安京に都を移した方です。）で、これは3月で春分の日だったようです。その後も受け継がれ、廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）があったにもかかわらず、宮中では「皇霊祭（こうれいさい）」と名前を変えて続けられ、ついに祝日に制定されたとのこと。

遊びたい！休みたい！という気持ちはわかりすぎるほどわかりますが、なぜ祝日なのか、ということを知り、過ごしてみたいはかがでしよう^_^

参考文献

- 1) 『仏教の未来をひらく』 友松圓諦 著 すずき出版 2002年
- 2) 『続 仏教語源散策』 中村元 編 東書選書 昭和52年

編集 横山 由馨